allcinema

勝利の朝（1933）

MORNING GLORY

メディア 映画
ジャンル ドラマ　ロマンス
製作国　アメリカ
色彩　B&W
時間　74分
初公開日 1934/10
公開情報 劇場公開

【解説】

一人の女優の演技で、こうも映画が力強く成り立つのかと驚嘆し、巻を追うごとにヘプバーンに魅了される、映画による卓越した演技論といった面持ちの作品だ。彼女扮するエヴァ・ラブレースはバーモントの田舎町からＮＹへ出てきた女優志願者。大物プロデューサー、イーストン（マンジュー）の事務所で門前払いを喰らいながら、巧みに居坐り、名優ヘッジスに演技コーチを頼み、劇作家シェリダン（フェアバンクス・Ｊｒ）に自分を強く印象づけ、端役をもらう。ここまではいかにも舞台劇の映画化然とした印象を免れ得ないが、この後の映画的に省略された語りのうまさには舌を巻く。シェリダンの新作“青空”のネオン看板をなめて、ブロードウェイの客待ちのタクシー運転手のためのカフェでコーヒーをすするエヴァが映る。それを見つけたヘッジスが、芝居の成功を祝うイーストン邸でのパーティへ彼女を誘う。この席で彼女はスターだった。酔った彼女はいかにも大女優然とシェークスピアの悲劇を客たちの前で演じ喝采を浴びる。が、そのまま寝込んでしまい、その夜はそこに泊まった。翌日、早くからそこへ呼び出されたシェリダンにイーストンは真実を告げる。彼女と関係を持ってしまった、と。エヴァに好意を持っていた彼は少なからぬショックを受ける。イーストンの気持ちは遊びだった。時が経ち、エヴァがドサ廻りでも何でもして喰いつないでいる一方で、シェリダンの新作翻訳劇“黄金の枝”が開幕を迎える。が、主演の大物女優が直前でゴネて、頭を抱えるイーストン。そこへ、代役なら僕が用意している、と連れて来られたのがエヴァだった……。舞台が成功裡に終わり、勝利の余韻の中で自分を客観視するエヴァとかつて彼女と同じ立場にいた、今は衣装係のネリーのやりとりが実に感動的。エヴァはこの“曙の栄光”を持続していかねばならないのである。この原作は「女優志願」として、’５８年に再び映画化された。

【クレジット】

監督	ローウェル・シャーマン	Lowell Sherman	
製作	パンドロ・Ｓ・バーマン	Pandro S. Berman	
製作総指揮	メリアン・Ｃ・クーパー	Merian C. Cooper	
原作	ゾー・エイキンス	Zoe Akins	
脚本	ハワード・Ｊ・グリーン	Howard J. Green	
撮影	バート・グレノン	Bert Glennon	
編集	ウィリアム・ハミルトン	William Hamilton	
音楽	マックス・スタイナー	Max Steiner	
出演	キャサリン・ヘプバーン	Katharine Hepburn	エヴァ・ラヴレース
	ダグラス・フェアバンクス・Ｊｒ	Douglas Fairbanks Jr.	ジョセフ・シェリダン
	アドルフ・マンジュー	Adolphe Menjou	ルイス・イーストン
	メアリー・ダンカン	Mary Duncan	リタ・ヴァーノン
	Ｃ・オーブリー・スミス	C. Aubrey Smith	ロバート・ハーレイ・ヘッジス
	ドン・アルヴァラード	Don Alvarado	ペピ・ベレス

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.